

## 第2回江別市生涯活躍のまち構想有識者会議開催結果（要旨）

日時 平成28年8月30日（火）14時00分～15時45分  
場所 江別市民会館31号室  
出席者 澤井 秀座長、中川雅志座長代理、河西邦人委員、小原克嘉委員、西懸昭子委員、齋木雅信委員、鴻野 徹委員、今田英徳委員、井上 智委員（計9名）  
傍聴者 3名

### 会議概要

#### 1 開会

#### 2 議事

##### （1）江別版「生涯活躍のまち」構想（案）の検討について

##### ①基礎データ、現状分析の報告について

##### ②アンケート結果の報告について

事務局より資料1、資料2を説明

（河西委員）江別市から3つのモデル案の資料が示されているが、現状分析、アンケート調査等の結果を踏まえ、このモデルを優先的に進めたいといったデータの整理が必要であると考え。市としては、これらデータのうち、どのような結果が有益であると考えたのか。

（事務局）資料として整理はしていないが、アンケート調査の結果から、移住希望を持っている人は公共交通機関の便利なところ、日常生活が便利なところ、医療・介護が充実しているところなどへの希望が高いことが分かった。そうした結果から江別市における「生涯活躍のまち」構想のコンセプトを導き出した。具体的にどのようなデータを反映したかについては、後のモデル案説明の際に口頭でお知らせするほか、改めてデータとして整理してお示ししたい。

##### ③先進地調査の報告について

事務局より資料3を説明

（今田委員）障がい児の施設など、シェア金沢全体で何人が生活しているのか。またサービス付き高齢者向け住宅の定員は何人か。

（事務局）知的障がい児の入所施設定員が31人、サービス付き高齢者向け住宅は32世帯40人が生活している。その他、学生向けの住宅がある。サービス付き高齢者向け住宅は12～14万円程度の家賃のようだ。

(今田委員) シェア金沢全体で、どのくらいの費用をかけて設置され、費用はどのように調達したのか。また、維持管理・運営の費用などは、どのように賄うのか。

(河西委員) 運営法人は社会福祉法人なので、財務諸表などが公表されているのではないかと。

(事務局) 整備費用については、正確な数字は聞いていないが十数億円かかったと聞いている。そのうちの大部分は銀行からの借り入れ。運営については、当初 4 年間は赤字、5 年目あたりから黒字転換の予定であると聞いている。

(河西委員) 初期投資 20 億円のうち、どの程度を補助金でまかなったのか。

(事務局) 正確ではないが、4 億円程度であったと思われる。補助金の種類までは確認していない。

(河西委員) シェア金沢を先進事例として視察に行っているが、江別市におけるモデルを考えるときに、「札幌盲学校跡地を中心とした大麻タウン型モデル」においてシェア金沢のようなビジネスモデルを持った社会福祉法人を誘致するという考えがあるのか。

(事務局) 今はそこまで決める段階ではないと考えている。ただ、シェア金沢における障がい者と高齢者の交流による「ごちゃまぜのまちづくり」の考え方は、江別が考える「生涯活躍のまち」にふさわしいモデルだと感じている。

(河西委員) 1 つの事業者だけでなく、障がい者支援や高齢者支援などを行う複数の社会福祉法人がコンソーシアムを組むなどにより一緒に取り組むといった、新しいビジネスモデルも検討するということか。

(事務局) 考えていきたい。

#### ④江別版「生涯活躍のまち」モデル案の検討

事務局より資料 4 を説明

(鴻野委員) 札幌盲学校跡地への道立高等養護学校誘致については、江別市への道立高等養護学校誘致期成会において誘致活動が進められているが、当該期成会においても、今回示された「札幌盲学校跡地を中心とした大麻タウン型モデル」の話はされているのか。

また、「札幌盲学校跡地を中心とした」モデルとなっているが、「大麻地区の商店街を中心」に考えるべきではないか。商店街が持つ安心・安全への取組みやコミュニティ活動の場といったさまざまな機能を活用しながらモデルを構築することで、効果的に進めることができる。江別らしさ、にもつながるのでは。

(事務局) 6月に開催された江別市への道立高等養護学校誘致期成会総会において、江別市として生涯活躍のまち構想の候補の一つに札幌盲学校跡地の一部の活用を考えていることを説明した。

札幌盲学校跡地モデルでは、商店街でのソーシャルビジネスの可能性、大麻まちづくり協議会を活用した住民交流などを考えている。大麻においては商店街を含めて活発な住民交流がなされていることが、この地域を選定した重要なポイントの一つとなっている。

「生涯活躍のまち」では、高齢者の住まいを整備することが前提であり、一定の敷地を確保してサービス付き高齢者向け住宅などの住まいを整備することが必要であると考えられる。

(鴻野委員) 今回のモデルで「札幌盲学校跡地を中心とした」という表現と、「大麻地区の商店街を中心とした」という表現ではイメージが異なる。あえて「札幌盲学校跡地を中心とした」という表現にした理由を伺いたい。また、駅を中心とした集約型のまちづくりという方針が第6次江別市総合計画にあるが、商店街などのように幾つかの拠点を作って、集約の上、最終的には駅を中心としたまちづくりにしてはどうか。

(事務局) 「生涯活躍のまち」においては、ソーシャルビジネス、ボランティア、大学など地域におけるさまざまな資源や機能を活用することが重要である。そこで暮らす方が、何を優先して選ぶのかということになるが、何よりも重要なのは「どうやって住まうか」ということである。

それを踏まえ、一定程度活用可能な公有地があり、そこを拠点にしながらか検討してモデルを構築したという経緯がある。お示しした3モデルを検討した時に、資源の状況などから大麻地区の熟度が高いと判断した。札幌盲学校跡地の一部を拠点とし、大麻地区全体で補完しながらモデルとして構築していきたい。

(鴻野委員) 「タウン型」「エリア型」の定義がわからない。また、江別市として、これら拠点にサ高住を建てたいと考えているのか。

(事務局) サービス付き高齢者向け住宅などの住環境を整備することは、まず必要なことであると考えている。札幌盲学校跡地については5.9haとかなり広い土地で、高等養護学校を建設するにしても2~2.5haの未利用地が出ると聞いている。未利用地には十分である。余分の土地には「生涯活躍のまち」としてふさわしいものを設置・建設し、大麻地区の商店街やその他資源と連携してさまざまな活動を行うことを想定して「タウン型」モデルとして整理した。

「エリア型」は一定の土地を整備してそこである程度完結するモデル。「タウン型」として大麻地区を巻き込んだかたちで検討している。

(鴻野委員) 江別では食と健康をテーマにさまざまな取り組みが進んでいる。北海道情報大学が中心となり健康に関するビッグデータを集めたシステム構築などをされているが、こうした取り組みを魅力づくりの一つとして「生涯活躍のまち」に取り込む考えはあるのか。

（澤井座長）健康チェックステーションが市内にあり、大麻地区にももちろんある。健康カードなどを含め「生涯活躍のまち」に組み込むことは必要である。

（事務局）札幌盲学校跡地モデルの構築を進めるとして、大麻地区にある3大学だけでなく、北海道情報大学を含めた市内4大学との連携が重要になる。大学の活動を巻き込んだ形にしていきたい。

（斎木委員）高等養護学校誘致の話が無くなると、「札幌盲学校跡地を中心とした大麻タウン型モデル」も無くなる、という理解でよいか。

（事務局）市として、そもそも高等養護学校の誘致が実現しないことは想定していない。しかし、仮に誘致までに時間がかかるとしても、大麻地区の優位性は変わらないため、可能な範囲で構想を進めたいと考えている。

（斎木委員）サービス付き高齢者向け住宅の誘致が前提となっているようだが、具体的な実現可能性はどうなっているのか。

（事務局）個別の事業者には、サービス付き高齢者向け住宅建設の意向があるかを確認している段階にはない。今年度中に構想を策定し、その後、基本計画を策定するときに改めて確認することになる。

（斎木委員）モデルとしてサービス付き高齢者向け住宅建設は重要な要素であり、もう少し踏み込んだ実現の可能性が示されないと、事業として進めることに不安がある。

（事務局）サービス付き高齢者向け住宅建設そのものは重要な要素ではなく、その地域にいかに住んでいただくかが重要。空き家活用なども一つの方法。

（斎木委員）一定程度の公有地が必要な理由として、サービス付き高齢者向け住宅などの建設が必要なためとの説明だった。サービス付き高齢者向け住宅がなくてもよいとなると、話が振り出しに戻ってしまうので、そこまで戻らずとも、事務局として考えているサービス付き高齢者向け住宅の可能性を事務局として検討していただきたい。

（澤井座長）事務局として、検討していただきたい。

（事務局）今年度中に構想を取りまとめる予定である。江別市として「札幌盲学校跡地を中心とした大麻タウン型モデル」を第一に進めていきたいという提案をしたが、この場において、委員の皆さまにご了解いただくことで、次回会議ではより熟度の高い提案をお示ししたいと考えている。

(河西委員)「札幌盲学校跡地を中心とした大麻タウン型モデル」を進めるとなると、コンパクトなまちづくりとは逆行する。江別市として、より広い土地をつかったまちづくりを行うというメッセージを市民に伝えることとなり、交通網の整備など、市としてもある程度の覚悟を示さなくてはならない。

また、モデルイメージの中に若年層の住替えとあるが、「生涯活躍のまち」に若い世代も呼び込むとした場合、そうした世代のニーズや視点も必要となる。今回の資料ではそこが欠落していると思うので、次回委員会で考え方を示していただきたい。

(中川座長代理)大麻地区は地域力を活用できることから現状では最初に実施することは良いが、「江別駅周辺地区土地利用検討委員会」で、「今後、多様な機能を複合的に配置、共存させることが活性化につながる」との土地利用の結論が出たばかりであり、今回「生涯活躍のまち」をつくる可能性があったと思うので、江別小学校跡地の考え方も整理する必要がある。示された3つのモデルのうち、「歴史ある江別小学校跡地活用によるまちなか型モデル」については、江別地区の再開発など市としても重要な課題にもつながってくる。「生涯活躍のまち」の構築は、地域再生のきっかけにもなるのではないか。今回、江別地区が後回しになった経過を確認しておきたい。

(事務局)まちの「熟度」が高いところを優先した結果、「札幌盲学校跡地を中心とした大麻タウン型モデル」を優先することになったが、「歴史ある江別小学校跡地活用によるまちなか型モデル」に可能性がないという話ではない。江別小学校跡地の活用については有識者の方々等と議論してきた経過があり、「生涯活躍のまち」の可能性についても検討したが、現在はその段階ではないとの結論に至った。

(斎木委員)大麻地区の地域の特性や資源を考慮すると、「札幌盲学校跡地を中心とした大麻タウン型モデル」の優先度は高い。

(澤井座長)それでは皆様のご意見を踏まえまして、構想の今後の策定におきまして、このモデル案をご了解いただくことでよろしいか。

(各委員)よろしい。

## (2) その他

札幌盲学校跡地については、道有地であることから、次回会議より担当部署である北海道教育委員会にも参加していただきたいと考えている。

## 3 その他

次回会議は、10月中旬から下旬を予定している。

#### 4 閉会